



未来の先生展  
2017

# 「みんなの学校」と「秋田県」の 教育の根底にあるもの

～新学習指導要領がめざす「主体的・対話的で深い学び」をめぐる～

開催日時 2017年 8月 26日(土) 14:20-15:50

場 所 武蔵野大学有明キャンパス 1号館405教室

講演者 矢ノ浦勝之

## 内容

全国に「みんなの学校」として知られる、大阪市立大空小学校。この革新的な学校では、重度の障害をもつ子どもも含め、多様な個性をもつ子どもたちが共に同じ教室で学ぶことを通し、子どもたちが真に学び合いながら、成長することを目指しています。一方、全国学力調査開始以来、小学校でトップの結果を出し続けてきた秋田県では、全県で一定の授業の型を共有しながら、学力向上を図ってきました。このふたつの教育は、表面的に見るとまったく異質のものに見えるかもしれませんが、そこには共通するキーワードがありました。それは、「失敗やトラブル」と「修正のプロセス」です。しかも、これらは新学習指導要領が求める学びとも合致するものだったのです。そこで、「みんなの学校」と「秋田県」の教育の具体的な実践内容に触れながら、新学習指導要領との関係を分かりやすく説明していきます。

## ここに注目！

「社会に開かれた教育課程」「主体的・対話的で深い学び」等々、多様なキーワードで教育関係者から注目を浴びている新学習指導要領。「それがめざすものは、何も新しいものではない」「今ある学校教育の中のよい部分を見直してもらうための視点」という趣旨のメッセージを、文部科学省は何度も発信しています。実は、その「今ある教育の中のよい部分」とは、まさに「みんなの学校」の実践を通して木村泰子校長が目指してきたものであり、「秋田県の教育」が長い年月をかけて積み上げてきたものなのです。その実際について、大空小学校に直接取材を行い、木村泰子元校長にも何度も取材を行い、秋田県ではのべ60校以上を取材。さらに、新学習指導要領の改訂過程を取材し、中央教育審議会の教育課程部会長や文部科学省教育課程課長等に何度も取材を重ねてきた講演者が、その関係を分かりやすく読み解いていきます。

## プロフィール



### 矢ノ浦勝之

1964年、山口県生まれ。東京学芸大学卒業。小学校1級、中学校1級、高校2級(国語)免許取得。大学卒業後、月刊『現代』で記者生活をスタート。その後、『総合教育技術』誌などを中心に、約20年間、教育記者として学校現場を取材する。著書に『秋田県式「授業の達人」10の心得』等がある。

## 講演者からのメッセージ

私は、初めて秋田県の小学校を訪れて授業取材を行った時、それまで全国の小学校で見てきた授業とはまったく異質なことに驚きました。同様に、初めて大空小学校の教育に触れ、木村泰子校長の話を伺った時にも、それまで見聞きした教育とは大きく異なることに衝撃を受けました。しかし、その後、木村校長と取材で何度かお目にかかり、木村校長が考える教育について伺い、一方で詳しく知る秋田県の教育について話すうちに、両者には大きな共通点があることが分かりました。そして、それはこの2年強、改訂過程を取材してきた新学習指導要領の目指す学びと同じ方向性をもったものだったのです。明日の教育を考えたい方には、この機会に、ぜひ見て、聞いて、考えていただきたいと思っています。